

第 8 回定期総会を開催しました

新型コロナウイルスの影響を受け、総会開催について運営委員会で検討し、今年度は、いろいろな形での参加ができるようにしました。昨年度のように事前の稟議書で書面議決する方、オンラインで参加する方、会場で参加する方の3パターンを準備しました。

6月5日(土)、主催者である運営委員を中心に宇部緑橋教会に集まり、総会を開催しました。

正会員数131名(2021年6月5日現在)のところ、事前の書面議決書にて参加されている方が26名、オンライン出席者が5名、会場出席者が21名、計出席52名の出席(別途、賛助会員他オンラインでの陪席参加者4名)によって、議長・島徹史 書記・山内弘恵の下、活動報告・会計報告、会計監査報告、活動方針・予算案等について審議が行われました。

議事録署名人(久保武智 中嶋光雄)、会計監査委員(木村和彦 時田洋輔)が運営委員より提案されました。

昨年、欠員となっていた事務局長について、事務局長代行の小畑太作が運営委員会より推薦されました。

すべての議案について、異議なく承認されました。

(議案書をご覧になりたい方は、事務局までご連絡ください。)

また、今年度は、遺族会会長からのメッセージも寄せられ、井上洋子共同代表が代読しました。

(内容はP3)



第 2 部 記念講演会

山口県での朝鮮人強制労働 —長生炭鉱を中心に—
講師 竹内康人さん(歴史研究家)

総会終了後、オンラインで講演していただきました。

詳細なデータや資料をご提供くださり、今後の私たちの活動に非常に役立つものとなりました。

(講演内容については、現在別途報告の方法を検討中です。)

※当日は、YouTube 配信を同時に行っており、50名を越す視聴がありました。

刻む会 たより

NO. 81

2021年6月27日

長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会 共同代表 井上洋子・木村道江

事務局 宇部市常盤町一―一九(宇部緑橋教会内) TEL0836(21)8003

カンパ振込先 ゆうちよ銀行 □座番号 01590・7・32405

年会費 《正会員》個人3,000円 団体5,000円
《賛助会員》個人1,000円 団体2,000円

ホームページ <https://www.chouseitankou.com>

メール chouseitankou@gmail.com

名義 長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会



2020年度 活動総括（評価と展望）

はじめに

昨年2月1日「78周年追悼集会」が開催され、韓国政府を代表して行政安全部「過去史関連業務支援団」の代表が初めて追悼式に参列し、韓国政府との強い連帯を確認することができました。

続く3月10日に予定されていた韓国遺族会が初めて参加する日本政府との交渉はコロナ禍のために断念という苦渋の選択をせざるを得ませんでした。

その後のコロナ状況は感染拡大の一途をたどり、4月7日には「緊急事態宣言」まで発出されて、学校の休校をはじめあらゆる集会、イベントが中止・延期に追い込まれました。当然、私たちが予定していたフィールドワークをはじめ多くの活動が制限された一年でした。

その中でも、阿久沢悦子記者の朝日新聞全国版への掲載、ジャーナリスト安田浩一さんの各社新聞への発信等々、マスコミの皆さんの働きにより、長生炭鉱問題が全国の心ある方々に届いた年でもありました。

今後、コロナ情勢に対応してリモート会議やSNS発信等、ネットを駆使して情宣に努めていきたいと思います。

1、遺骨・遺品等の収集と返還

2019年度は6月3日韓国行政安全部遺骸奉還課との歴史的な面談が実現し「刻む会」「韓国遺族会」と共に歩むことを確認し、その一か月後の7月1日には、黄棟俊（ファンドンジュン）課長以下3名が早速来日され、「追悼ひろば」や西光寺、ピーヤを視察されました。2020年2月1日の78周年追悼集会には、「過去史関連業務支援団」団長以下4名が出席され、「刻む会」「遺族会」と3者協議も行われ今後の方針について話し合いも持たれ、ようやく「遺骨収集」に向けた基盤が確立された年でした。しかし、今年度はコロナ情勢の中一歩も進むことができず、メール等でのやり取りだけに終始しました。

日本政府からは、2019年秋に現地調査について現時点での予算確保が困難、今後条件がいかに整うかで状況は変わりうるとの口頭での回答がありました

が、その後の進展はなく、現地調査の予算計上の要求や追悼式への日本政府としての取り組み等今後継続して交渉の必要があります。

遺族のDNA鑑定について、在韓遺族については韓国政府が取り組むことの確認はありますが、その後の経過状況は把握できていません。在日遺族（日本人含む）については、山口市の日本人遺族から名乗り出があり、2020年12月に2人のDNAを採取することができました。3月24日にはこの件について記者会見を行い新聞、テレビ等を通じて遺族の情報提供をよびかけることができました。

遺骨発掘に向けた坑口調査等は手つかずの状況であり、今後土地取得のための方策も含め検討が必要です。

2、79周年追悼式・追悼集会の開催

コロナ禍の中で韓国遺族会は1993年以来初めて追悼式への出席が叶わず、また日本でも未だ感染が終息しない状況の中でどのような形で開催するのか、運営委員会で思案しましたが、ご遺族の無念の思いを日本に住む私たちが受け止めて感染拡大防止に努めながら開催することを決定しました。

2021年1月30日（土）11時より、例年通り現地で追悼式を開催し、予想を上回る100名もの方々の参加がありました。

オープニングでは在日ご遺族のハルナユさんが「カジマヨ」（行かないで）を熱唱され、金宣杓（キムソンプョ）駐広島大韓民国総領事も参列・挨拶をいただきました。韓国ご遺族になりかわり、総領事、民団団長、総連委員長がハルナユさんと共にチエサを執り行ってくださいました。

第2部は宇部市「ヒストリア」で14時から講演会を行いました。追悼式に引き続き50名を超す皆様方が参加されました。

ご遺族を代表して楊玄（ヤンヒョン）会長がビデオメッセージで挨拶があり、特に西光寺に保管している位牌について、木箱に物として保管されている状況は犠牲者の方に対して罪を犯しているのと同じであり、

韓国に持ち帰り誰でも自由に参拝できるようにしたいと訴えられました。

続いてご遺族が来日できない中なので、これまでのご遺族の証言を編集したビデオが上映されました。犠牲者やご遺族の無念の思い、辛苦に耐えない人生等々を改めて参加者一同胸に深く刻むこととなりました。

講演は「刻む会」顧問内岡貞雄が「強制連行」と長生炭鉱および今後の展望と題して行いました。「強制連行」を碑に刻むまでの経緯、監視下の「合宿所」での強制労働、生存者の証言等々ありませて今後の展望を示されました。

また遠方からジャーナリストの安田浩一さんが参加され、「戦争の罪科を今に刻む」と題し追悼式の模様とハイトの中を生きる在日の方々の皆さんのエールを新聞に発信してくれました。

恒例の夜の交流会は断念せざるをえませんでした。来年は80周年という節目の年となります。何としても遺骨発掘に向けた手がかりをつかみ希望のある追悼集会にしたいと思えます。

3、学習会・研究会およびフィールドワークの開催

本年度は、部落解放・人権西日本夏期講座や愛知人權啓発企業連絡会等々、受け入れを予定していたフィールドワークはコロナのためにことごとく中止延期となりました。

「平和フェスタ2020」は、「コロナ感染予防のため」に延期されて10月にオンライン中継配信を行い、「アボジは海の底」上映と共同代表木村道江が話しをしました。

延期された強制動員真相究明ネットワーク主催「第13回強制動員全国研究会」が2月20日（土）にweb上で開催され、共同代表井上洋子が「長生炭鉱の新しい証言」と題し報告を行いました。

4、追悼ひろばの拡充

リーフレット（日本語・ハングル・英語）置き場のリニューアルが完了し、台風で破損したカーポートの修繕工事も行いました。

日焼けして判読が難しくなっていた木製の名板は、ご遺族の懸念材料でもあったので、思い切って石の名板に刷新しました。

以上については高額な経費がかかっており、今後拡充についてはカンパに期待するところです。

5、ピーヤ等の保存

長生炭鉱の唯一の遺構であるピーヤは、犠牲者の墓標のような存在であり、犠牲者と遺族の悲しみの象徴として何としても後世に残さなくてはなりません。建設されてからすでに100年を経過し自然崩壊は避けることはできませんが、海底炭鉱としての学術的価値も高いものです。

貴重な産業遺産として宇部市が「文化財」に指定することが最善の策に変わりはなく、今後粘り強く交渉を続けていきます。

また、独自にピーヤの修理保全に取り組むことも視野に入れて活動していきます。

長年の交渉の末に宇部市が設置したピーヤ説明版の横に、「刻む会」がハングル翻訳版を韓国政府の協力を得て作成し、2020年12月11日に設置をしました。

6、証言・資料(史料)の収集と編集

今年度も新たな資料集の発行とはなりませんでしたが、長澤秀さんの「海峡」論文については、ご本人の許可を得て、証言・資料集として再発行をめざします。

また、78周年追悼集会でご遺族の黄鐘培(ファンジョンベ)さんの長兄が宇部市内で突然行方不明になり犠牲となったとの証言について、さらに裏付け調査を続けていきます。

7、山口朝鮮中級学校への支援

山口朝鮮学校に対する補助金は、山口県と下関市が2013年度から、宇部市は2014年度から一方的に停止したため、「朝鮮学校を支援する山口県ネットワーク」の構成団体として毎月の県庁前抗議行動や朝鮮学校支援等の諸活動に積極的に参加してきました。在日をめぐる情勢の厳しさは依然として変わらず、日本人の差別意識、歴史認識が問われています。一人

でも多くの日本人が支援に立ち上ることを今後も訴えていきます。

8、その他、目的を達成するために必要な活動

(ア)行政との交渉

コロナのために交渉にうまくいかなかった状況下にあります。担当職員も交代されたようですが、宇部市役所、県庁への表敬訪問、交渉の再開がまず必要だと思われれます。

(イ)情宣並びに募金

○2月13日から14日防府市で開催された「草の根交流切手まつり」に参加し、B・Y・P韓国青少年交流に参加している中学生が長生炭鉱について今まで学んだことを若者の視点でパネル展示してくれました。

○3月14日「須金市日」でパネル展示と情宣を行いました。

○『刻む会たより』はNo.77〜80発行しました。

(ウ)他団体との交流

○真相究明ネットワーク主催の事務局会議や「第13回全国研究会」等に参加し、全国の皆さんと交流を深めました。

○人間いきいき研究会の定例会議、webでの韓国との交流等、長生炭鉱の事実を日韓の特に若者の共通認識にするため継続して参加しています。

○10月18日「NPO法人国際交流広場無窮花堂友好親善の会」秋季追悼式に顧問内岡貞雄が出席しました。

(エ)マスコミ対応

本年はマスコミ関係者の取材を受け、新聞掲載が実現の運びとなり、マスコミの影響を感じた年でした。

(オ)運営委員会と会員の動向

運営委員が1名欠のままであり、補充が必要かと思えます。

会員数は4月13日現在、正会員131名(前回総会比5名増)、賛助会員269名(同 2名減)、寄付者103名(同 2名減)となりました。今年度の会員加入(寄付者含む)は活動状況と連動して微

増にとどまり、今後もあらゆる機会を通じて加入を訴えていきます。

韓国遺族会会長から 総会へ寄せられたメッセージ

新緑の青葉が繁れる6月を迎えました。コロナ19の影響のため今だに大変な時期を過ごしております。

このような大変な状況でも総会を開催され様々な課題等を議論される「刻む会」の関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。

私たち遺族会は皆様の惜しみないご声援と激励により遺骨発掘という希望を胸に抱きいつも感謝の思いで過ごしております。

直接お会いしてご挨拶ができないうことが残念でなりません。1日も早いコロナ19の終息と皆様のご健康と幸運をお祈りいたします。

2021年6月3日

長生炭鉱 大韓民国 遺族会

会長 楊 玄(ヤンヒョン)

吉田邦彦（北海道大学大学院法学研究科
教授・南京師範大学兼職教授）

（1）北海道（千歳空港）を飛つ飛行機は夏の嵐でほとんど欠航する中で、奇跡的に初めての地、山口宇部に来ることができた。長生炭鉱の1942年2月3日の悲劇（183人の犠牲者の内の7割の136人は、韓国朝鮮人労働者である）のことを知らされたのは、刻む会初代表の山口武信先生の（民法の一環として強制連行の問題を勉強し始めた頃である）¹。2001年夏のラジオ深夜便だった²。その時思ったのは、殿平善彦氏が朱鞠内タムの犠牲遺骨についてなされた³のと同じように、死者への手紙を出されたのか：ということ、そして被害者の衝撃的な悲劇と、戦後数十年経っても放置されているのかということへのショックだった。



宇部市床波海岸での長生炭鉱ピーヤ（井上洋子さんと共に）

No.81
（2）強制動員買相ネットを通じて知己となっていた井上洋子さんの案内で、遅ればせながら初めて（2021年6月）、床波海岸に立って、長生ピーヤの現場を見ると、あの通気口が慰霊碑のように思われるのは私だけではないだろう。追悼広場を訪ね、さらに位牌が収められている西光寺に行き、住職の

佐々木真人さんにもお会いした。そして、当時の飯場（『合宿所』と記される収容宿舎）がそのまま残されているのにも驚いた。とはいえ、悲劇から80年近くも経ち、遺族も高齢化が進んでいる。



追悼広場でも見られる犠牲者の位牌（西光寺所蔵）

「刻む会」の総会でも、今後の課題として述べさせていただいたのは、第1に、遺骨収集の可及的速やかな開始（今日の技術をもってすれば、日韓の共同事業としてその気になればそれ程難しくないと思うがどうであろうか）、そして第2に、遺族が（遺骨の代わりに）位牌の奉還を求めるならば、できるだけそうすべきではないか、ということである。

この点は、合葬された札幌別院遺骨についても相議論したが、結局2010年代半ば（2015年9月）に遺族近くに奉還した⁴。遺骨所有権に関する判例は遺族の祭祀承継者にあるとするが、この点で、事故当時の長生炭鉱（株）を承継する頼尊家サイドは、位牌について、自身に所有権があるとする如くである。しかし、仮にそつだとしても、広義の補償責任（事故責任）の効果の一環としても、位牌所有権は、遺族に譲渡すべきだと主張できるだろうし、坑口近くも整備して遺族ないし一般公開に努めるのが、責任の取り方であろう⁵。（私も当日敷蚊に刺されながら、坑口を探したが、その周辺の所有権が同家にあるからとして、追悼者を排除するなどということが事実だとしたら、理解しがたいことであろう）。

1. 当時の私の作品として、吉田邦彦「在日外国人問題と時効法学・戦後補償——『強制連行・労働』問題の民法的考察」ジュリスト1214・1217号、1219号、1220号（2001）2002）同・多文化時代と所有・居住福祉・補償問題（民法理論研究3巻）（有斐閣、2003）8章に所収がある。
2. その番組の状況は、長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会・山口武信追悼集・ひかり海の底深く（同会、2016）41頁以下に再現されている。
3. これについては、「笹の墓標」編集委員会・笹の墓標——朱鞠内・タム工事掘り起こし（空知民衆史講座、1986）37頁以下、同・和解のかけ橋——統笹の墓標（同講座、1994）23頁以下、空知民衆史講座・朱鞠内と強制連行・強制労働（同講座、1996）52頁以下など参照。
4. これについては、吉田邦彦「札幌別院遺骨問題と『戦後補償』論」法律時報76巻8号、9号（2004）同・前掲書（注1）（民法理論研究3巻）（506頁以下）、同「北海道強制連行・労働の拠点・朱鞠内」『遺骨奉還事業』を考える——補償法学の原点としての「被害者に寄り添う」ということ（Forum Opinion「現代の理論」31号）（2015）同・東アジア民法学と災害・居住・民族補償（中編）（民法理論研究6巻）（信山社、2017）74頁以下）参照。
5. ここで少し、「頼尊家の責任」について、一言しておこう。すなわち、山口武信「長生炭鉱「水非常」についてⅢ」宇部地方史研究25号（1997）「長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会・証言資料集」2「アホジは海の底（同会、2014）26-27頁」によると、長生炭鉱の採掘が公に認められたのは1919年で、1920年代には亀浦炭鉱（株）が採掘権を有し、1931年には東宇部炭鉱（株）に移り、1937年に長生炭鉱の頼尊単人及び山田新松両氏に移り、1941年からは頼尊単人氏が前面に出る。他方で、頼尊淵之助氏が、三井物産の依頼で亀浦炭鉱（株）の常務取締役兼所長、東宇部炭鉱（株）社長に就任する。更に、戦後の淵之助氏の発言として、「大きな水没事故を起こし大きな犠牲者を出したのは、私が悪い。法律違反（保安法規違反）をして採掘したから、その記録は山口地裁に残っている」とされるのである（この点は、伊藤智永・忘却された支配——日本の中の植民地朝鮮（岩波書店、2016）9-11頁参照）。思うに、東宇部・亀浦・長生の三炭鉱株式会社は密接な関係を有していたのである。従って、その経営者自らによる「責任」を肯定する述べた意味は大きい。もちろんここで論じているのは、「法的責任」（そのシェルベルでは、消滅時効ないし除斥期間が支障になりうる）、韓国・朝鮮からの外国人労働者に対する責任が、日韓条約で免責されるかについては、解釈が日韓両国で分かれるところである（日本の判例は免責を肯定する）ではなく、後述する、「道義的責任」の問題である。

（長生の事故以外に）1916年に東見初炭鉱事故（235人死亡）、1920年新浦炭鉱事故（34人死亡）（その犠牲者の碑には韓国・朝鮮人の名前も見える）、1950年若沖炭鉱事故（35

（3）こうした議論の後に、我々は、竹内康人さんの「山口県での朝鮮人強制連行」と題する詳細な報告を伺った。その報告の主眼は、当時の宇部市人口の2・3割が韓国・朝鮮の強制連行・労働者である（約2万人以上の動員がなされて、常時1万人以上が労務に就いていた）ことと責任をもっと考えなければならぬということとにあった。そして宇部炭鉱の主要なところ、そして強制連行が多かったのは、今日の宇部興産に繋がる沖ノ山と東見初（みそめ）炭鉱だったことも同氏の強調するところだった。

総会司会の島徹史先生
（山口大学名誉教授・「刻
む会」顧問）とともに
（宇部緑橋教会にて）



坑口近くに残される
長生炭鉱の収容所

人死亡）という具合で続いている。東見初炭鉱は1944年に宇部興産が吸収し、長生炭鉱は、組織法上は別系列というのは、時代の推移の偶然的要素もある。

前日遅くに私は宇部に辿り着くことができて、強く印象づけられるのは、同市は、典型的な企業城下町で、宇部興産と表裏のものであるということだ。この場所が渡辺翁といえ、渡辺華山（1793～1841）（三河田原藩藩士）ではなく、宇部興産（元は、沖ノ山炭鉱）の創設者渡辺祐策氏（1864～1934）のことであり、町の中心にはその銅像及び記念会館（1937年竣工。戦前のものとは思えない立派なものである）がある。



宇部興産全景（撮影吉田）

（4）戦後補償判例のリーディングケースとして、平成19年（2007年）の西松建設事例⁷があり、そこで最高裁は『付言』を述べて、法的責任はないが、道義的責任（自然債務）はあるとする。それならば、むしろ逆に今後は、（道義的責任故に）コリ深く、広く道義的な補償責任を考えるべきであるというのが私の考えである。

そしてそれを宇部炭鉱、そして長生の悲劇に当てはめるならば、——法的責任レベルでは直ぐに、条約論として『解決済み』というのであろうが、——道義的には、（宇部炭鉱と密接不可分な関係にある）宇部興産のCSR（企業の社会的責任）という点からも、竹内報告が強調する未払い賃金の膨大さに鑑みて、宇部市なども連携して、再

考すべきではないか。そして、長生の事故についても、責任の担い手がないというならば、一連の炭鉱事故総体として、先進的に企業城下町の担い手が現状の事態を前向きに推進し、その中で日韓の国際的問題解決の先頭に立つような動きを起こせないものだろうか、思う次第である。



渡辺翁記念会館玄関に
ある鉱夫のレリーフ
（撮影吉田）

6. 例えば、夕張働くものの歴史を記録する会編・わが夕張——知られざる炭鉱ヤマの歴史（みやま書房、1977）、同編・炭鉱ヤマに生きる（同会、1979）、自由法書団夕張新鉱災書調査団・きけ炭鉱ヤマの怒りを（笠原書店、1982）、小池弓夫ほか・地底の葬列（桐原書店、1983）など参照（後二者は、1981年10月の夕張新鉱での事故（犠牲者93名）に関するものである）。

7. 最判平成19年4月27日民集61巻3号1188頁。

8. 宇部興産の宇部炭鉱との関わりについては、例えば、百年史編纂委員会編・宇部興産創業百年史（宇部興産（株）、1998）3頁以下、29頁以下、55頁以下、118頁以下、141頁以下、213頁以下など参照。本書入手に当たっては、（投宿ホテルと同一ビルにある）宇部興産（株）総合サービスの中村智美氏のご配慮によった。厚くお礼を申し上げます。情報豊かな社史であるが、外国人労働者に関しては、「朝鮮人、中国人、戦争捕虜なども労働力に加えたが、未経験であるため、労働力の質が落ち、指導に負担がかかり、能率が低下した」とする（131頁）のは、いささか冷淡に過ぎるであろう。こうした「事実認識」をどのように歴史的真相に向き合うスタンスに変えていくかは、同社の課題であろう。補償問題の解決のアルファでありオメガであるのは、謙虚な「歴史認識」把握であり、刻む会の第一次的任務もまずはこのレベルに傾注するところにあるであろう。

会計報告（2021/3/01～2021/3/31）

【一般会計】

（円）

	科目	年度予算	期間実績	累計	達成率	備考
	歳入					
1	会費	600,000	14,000	536,000	89.3%	
2	寄付金	900,000	49,030	799,130	88.8%	※
3	物販	46,000	0	5,500	12.0%	
	証言・資料集	36,000	0	4,500	12.5%	
	その他	10,000	0	1,000	10.0%	
4	雑収入	4,000	0	3,740	93.5%	
5	前期繰越金	51,156	0	51,156	100.0%	
6	特別会計より繰入	0	0	0		
	合計	1,601,156	63,030	1,395,526	87.2%	

	科目	年度予算	期間実績	累計	達成率	備考
	歳出					
1	事務費	50,000	4,762	44,478	89.0%	
2	広報費	300,000	40,470	376,505	125.5%	
3	会議費	30,000	30,000	30,000	100.0%	
4	追悼碑管理費	10,000	345	4,250	42.5%	電気代
5	活動費	1,035,000	172,573	176,873	17.1%	
	学習会等	135,000	0	0	0.0%	
	追悼集会	650,000	172,573	172,573	26.5%	
	その他活動	250,000	0	4,300	1.7%	
6	他団体会費等	40,000	5,000	58,000	145.0%	真相究明ネットワーク会費
7	雑支出	65,000	152	35,423	54.5%	
	手数料	45,000	152	35,423	78.7%	
	その他	20,000	0	0	0.0%	
8	予備費	36,156				
9	特別会計へ繰出	35,000	0	0	0.0%	
	小計	1,601,156	253,302	725,529	45.3%	
10	繰越金	0	-190,272	669,997		
	合計	1,601,156	63,030	1,395,526	87.2%	

※寄付者（敬称略）

岩瀬 三郎 内山 賢次 落合紀久子 金澤 正善 関谷 陽子 高橋 信 土井 桂子
 鳥家 治彦 浜田 光明 林 修二 福田富美子 藤本 明美 藤本 敏明 水谷 和子
 水谷 淳 森次美代子 山内 弘恵 山県 順子 山本 興治（社）亜太平和交流協会
 日本基督教団隠岐教会 日本基督教団小野田教会 その他匿名4件

【追悼碑特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
繰越金	68,292				
繰入金	0		繰越金	68,292	
合計	68,292		合計	68,292	

【遺骨収集等特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
繰越金	1,746,968				
繰入金	0		繰越金	1,746,968	
合計	1,746,968		合計	1,746,968	

以上感謝をもってご報告いたします。引き続きのご支援をお願い申し上げます。

会計報告（2021/4/1～2021/5/31）

【一般会計】

（円）

	科目	年度予算	期間実績	累計	達成率	備考
	歳入					
1	会費	600,000	328,000	328,000	54.7%	
2	寄付金	860,000	104,800	104,800	12.2%	※
3	物販	15,000	1,500	1,500	10.0%	
	証言・資料集	10,000	0	0	0.0%	
	その他	5,000	1,500	1,500	30.0%	
4	雑収入	4,000	0	0	0.0%	
5	前期繰越金	150,000	0	0	0.0%	
6	特別会計より繰入	0	0	0		
	合計	1,629,000	434,300	434,300	26.7%	

	科目	年度予算	期間実績	累計	達成率	備考
	歳出					
1	事務費	50,000	8,249	8,249	16.5%	
2	広報費	370,000	127,689	127,689	34.5%	会報誌送料・印刷他
3	会議費	66,000	0	0	0.0%	
4	追悼碑管理費	10,000	711	711	7.1%	追悼ひろば電気代
5	活動費	900,000	3,000	3,000	0.3%	
	学習会等	100,000	0	0	0.0%	
	追悼集会	600,000	0	0	0.0%	
	その他活動	200,000	3,000	3,000	1.5%	切手まつり
6	他団体会費等	50,000	0	0	0.0%	
7	雑支出	50,000	355	355	0.7%	
	手数料	40,000	355	355	0.9%	
	その他	10,000	0	0	0.0%	
8	予備費	98,000				
9	特別会計へ繰出	35,000	0	0	0.0%	
	小計	1,629,000	140,004	140,004	8.6%	
10	繰越金	0	294,296	294,296		
	合計	1,629,000	434,300	434,300	26.7%	

※寄付者（敬称略）

李 相 祚 内岡三枝子 大黒 春江 亀山 英雄 姜 潤 華 栗原 健 古城美保子
 斉藤美代子 坂 貞子 田上 中 玉木 節子 戸井 雄二 永富 彌古 那須美佐子
 萩 ルイ子 飛田 雄一 福田 紀子 福田 安子 藤本エイ子 松富 昭子 宮川 悦子
 森田 彰人 湧川 静子 観音宗 その他匿名7件

【追悼碑特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
繰越金	68,292				
繰入金	0		繰越金	68,292	
合計	68,292		合計	68,292	

【遺骨収集等特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
繰越金	1,746,968				
繰入金	0		繰越金	1,746,968	
合計	1,746,968		合計	1,746,968	

※一般・特別会計共、総会前につき繰越金・繰入金は未処理。

以上感謝をもってご報告いたします。引き続きのご支援をお願い申し上げます。

活動日誌(前回たよりの以降)

- 3/22(月) 真相究明ネットワーク事務局会議(Web)
- 3/24(水) 遺族調査についての記者会見(山口市)
- 3/28(日) (日韓青少年交流)B-I-Y-P実行委員会(Web)
- 4/14(水) 山口朝鮮初中級学校補助金カットに対する抗議座り込み行動及び座談会参加(山口市)
- 4/18(日) (日韓青少年交流)B-I-Y-P・ムンノリクラブ(山口市)
- 4/23(金) 第1回運営委員会(宇部市)
- 4/24(土) (日韓青少年交流)B-I-Y-P日韓スタッフ会議(Web)
- 5/6(木) 総会議案書発送作業(宇部市)
- 5/12(水) 山口県国際課との懇談会(山口市)
- 5/16(日) 山口朝鮮初中級学校補助金カットに対する抗議座り込み行動及び座談会参加(山口市)
- 5/16(日) (日韓青少年交流)B-I-Y-P・ムンノリクラブ(山口市)
- 5/17(月) 真相究明ネットワーク事務局会議(Web)
- 5/18(火) 第2回運営委員会(宇部市)
- 5/19(水) 第46回長生炭鉱水没事故問題解決協議会(Web)
- 5/20(木) (日韓青少年交流)B-I-Y-P日韓スタッフ会議(Web)
- 5/22(土) 「明治産業革命遺産の展示を問う！」シンポジウム(Web)
- 6/5(土) 第8回定期総会(宇部市・Web)
- 6/6(日) 吉田邦彦さんFW(宇部市)
- 6/6(日) (日韓青少年交流)B-I-Y-P実行委員会(Web)
- 6/9(水) 山口朝鮮初中級学校補助金カットに対する抗議座り込み行動及び座談会参加(山口市)
- 6/12(土) (日韓青少年交流)B-I-Y-P・日韓Web交流会(Web)
- 6/16(水) 第3回運営委員会(宇部市)
- 6/20(日) 山口民商婦人部定期総会講師派遣(山口市)
- 6/27(日) 『刻む会たより』発送作業(宇部市)

朝鮮学校を支援する山口県ネットワークからのお知らせ

「山口朝鮮初中級学校の子どもたちに、エアコンを！」プロジェクト

山口朝鮮学校の教室には今までエアコンがない中、先生たちと子どもたちは暑い夏を乗り越えてきましたが、いよいよエアコンを設置すべく、クラウドファンディングが開始されます。6月中に開始を目標に実行委員会が準備を始めています。クラウドファンディングは、目標額を設定して、一般の人々から支援を募るものです。このプロジェクトが成功するかどうかは、ひとえに市民の方々の連帯にかかっています。ご協力よろしくお願ひいたします。

《お問い合わせ先》

☎ 083-223-9303(学校)

✉ simonoseki2006@jcom.home.ne.jp

今後の予定

- 2021年7月7日(水) 19:00~
真相究明ネットワーク事務局会議(web)
- 2021年7月8日(木) 10:00~12:30
第4回運営委員会
- 2021年7月14日(水) 11:40~
山口朝鮮初中級学校補助金カットに対する抗議座り込み行動及び座談会
- 2021年8月10日(金) 10:00~12:30
第5回運営委員会
- 2021年8月18日(水) 11:15 ロビー集合
山口朝鮮初中級学校補助金カットに対する対山口県交渉

事務局より 会員動静(2021年6月14日現在)
 正会員 131名(今年度総会比±0名)
 賛助会員 268名(今年度総会比±0名)
 寄付者 103名(今年度総会比±0名)
 計 502名(今年度総会比±0名)
 会員・寄付者募集中!知人・友人にぜひ一歩お願いいたします!

同封物

- ★「笹の墓標記念館」建設カンパ趣意書
- ★振込用紙

今年度の会費納入及び、
カンパをお願いします!

※納入情報は封筒の宛名下に記載していますのでご確認ください。